

⑰ 小川島サイクリングコース

お問い合わせ先:唐津市交流文化スポーツ部地域づくり課
TEL 0955-72-9220



江戸時代の鯨捕りのようす
(鯨魚寛文録)

『申尾様にはおよびもないが
せめてなりたや殿様に』

OGAWASHIMA MACHINAMI MAP

小川島一周4km



小川島と鯨

小川島と鯨との関わりは古く、小川島貝塚からは鯨の骨を細工したアブヒオコシが発掘されています。捕鯨法を紀州より西海に初めて伝えたのが肥前大村藩の深澤儀太夫勝清といわれています。小川島にも、深澤家ゆかりの人物の建てた石造観音座像や基があることから、17世紀初め頃より当地で組織的な捕鯨をしていたと思われる。深澤組に引続き17世紀後半には呼子に本拠を構える中尾甚六が鯨組を始め小川島では盛んに鯨漁が行われていました。中尾甚六はもともと波多三河守の家臣と伝えられています。初代より8代まで捕鯨をつげ、莫大な富を蓄え、呼子浦のみならず近在の浦々の生活をささえ、唐津藩にも多額の運上銀を納め、藩からの手厚い保護もうけていました。鯨の減少により明治10年に組を解散しましたが、小川島捕鯨組、後の小川島捕鯨株式会社によって戦後まで鯨漁は続けられました。呼子には、鯨組主中尾甚六の屋敷が、当時そのままの豪壮な外観を保ち現存しています。



めくりあいらんどおがわ入口の石柱 (大正4年 小川島捕鯨(株)寄進)



鯨鯨供養塔 (文久3年<1863> 県指定文化財)



石造観音座像 (元禄2年<1689>)



鯨組主 旧中尾家住宅(呼子) (市指定文化財)



鯨見張所 『鯨一件の巻』上村本)



深澤家墓所 鯨の墓という言葉伝えもある



明治時代の鯨漁の船出(呼子)



鯨見張所 (県重要有形民俗文化財)



大納屋奉納の鳥居 (明和5年<1768> 田島神社)



納屋場の圓 (『鯨一件の巻』上村本)



稲荷社 (納屋場のあった場所に現存)